2023.10.27 上毛新聞

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

■118■

シルクの旅へ

持続への新たな工夫

先日、国内に現存する数少ない製糸工場である安中市の碓氷製糸の見学ツアーに参加した。昨年に富岡製糸場を見学してから、実際の製糸工程を見てみたいと思っていたので、県のホームページに掲載されていた見学ツアーに申し込んだのだ。

当日、現地に到着すると、妙義山の威容をバックに製糸工場の赤い屋根と山の緑のコントラストが美しい。この景色だけでも見る価値がある。

約1時間のツアーでは、繭を乾燥させて選別した後、煮て糸口を出し、複数の糸を合わせて繰糸機で巻き取り、生糸にして出荷するまでを丁寧に見学させて頂いた。実際に動いている繰糸機や作業の様子を間近で見ることができた他、糸を触ってその繊細さを感じ、良い繭と悪い繭の違いを教えて頂いた。

昔と違って繭の生産量が少ないので、操業度は無理に上げずに高品質の生糸の生産を目指しているそうだ。また、部品が入手できない操糸機の修理方法など事業を続ける上での苦労も伺った。

見学後、世界文化遺産のうち富岡製糸場と荒船風穴しか行ってないことを思い出し、残る二つも行ってみることにした。まずは藤岡市の高山社跡に向かったが、到着してみると母屋は修復と耐震工事のために解体され姿が見えない。

残念だったが、とても熱心な解説員のおかげで、高山社が養蚕技術の普及に果たした役割や、母屋の修復方法などを知ることができた。これから何年もかけて再構築するそうなので、再び訪れてみたくなった。

翌日は登山の予定だったが、悩んだ末にシルク旅の続きに変更して伊勢崎市の田島弥平旧宅へ。このタイミングが良かった。私が訪れた第3日曜は月に1度だけ建物の中（上段の間）に入れる日だった。近くの養蚕農家「進成館」も公開日で、建物の特徴である一番上の櫓（やぐら）（換気窓）まで上ることができた。訪れるなら第3日曜がおすすめだ。

進成館の方から、田島家には親戚関係にあった渋沢栄一がよく来ていたと聞いたので、数キロ先の深谷市血洗島の旧渋沢邸「中の家」へ。ここは8月にリニューアルしたばかりで、渋沢のアンドロイドが表情豊かに昔を語ってくれた。

計画性のない芋づる式の旅だったがタイミングに恵まれた。それぞれ昔のままに留まらず、今後も長く続くための新たな工夫をされていることが印象に残る旅だった。

肥後秀明（ひご・ひであき）　1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを経て2022年4月から現職。